2025 SUPER GT300 Round.3　MALAYSIA　～ Race Report ～

VELOREX
Fueled by Ambition

Team Le Mans

2025 SUPER GT300 Round.3　MALAYSIA　～ Race Report ～

大会概要

2025 年 SUPER GTシリーズ 第3戦

大会名称

2025 AUTOBACS SUPER GT Round 3 SUPER GT MALAYSIA FESTIVAL 2025

開催日時

6月26日 木曜（公式練習1回目） 6月27日　金曜（公式練習2回目＆予選）
6月28日 土曜（決勝）

開催サーキット

セパン・インターナショナル・スピードウェイ（1周：5.542 km）
所在地：マレーシア、Jalan Pekeliling,64000 KLIA, Selangor Darul Ehsan

同時開催レース

2025年GR 86 CUP MALAYSIA / Vios Challenge

主　催

Persatuan Sukan Bermotor Wilayah Persekutuan Kuala Lumpur

公　認

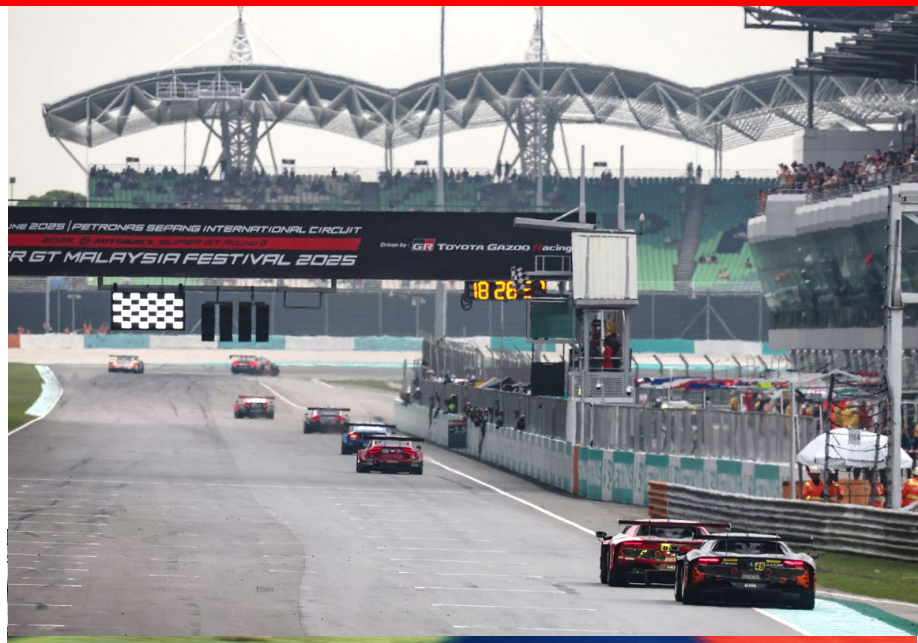
国際自動車連盟（FIA）/ Motorsports Association of Malaysia (MAM)

認　定

株式会社GTアソシエイション

後　援

経済産業省／国土交通省／自由民主党モータースポーツ振興議員連盟



VELOREX
Fueled by Ambition

Team Le Mans

◆ 参戦体制

■ ドライバー

片山　義章
YOSHIAKI　KATAYAMA

生年月日	1993年11月13日
出身地	愛知県
身長	168cm
体重	69.3kg
血液型	RH＋O

ロベルト　メリ　ムンタン
ROBERTO　MERHI　MUNTAN

生年月日	1991年3月22日
出身地	スペイン
身長	178cm
体重	70kg
血液型	RH＋O

■ 代　表　古場　博之

■ 監　督　小倉　啓悟

■ スタッフ

チーフエンジニア	Mattia Oselladore
チーフメカニック	片岡　恵人

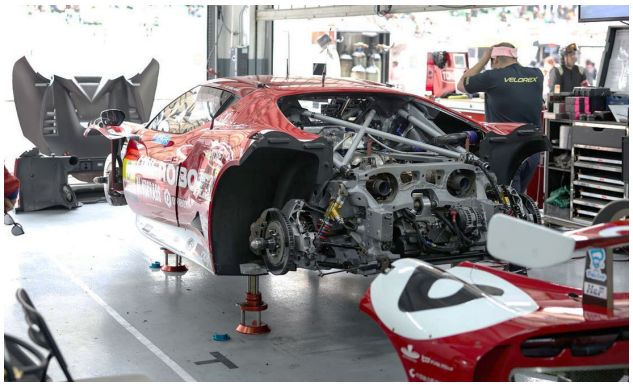
■ スポンサー

アスカ株式会社
株式会社ＣＩＳ
ＯＩＲＣ
ＴＯＮＥ株式会社
ニチアス株式会社
学校法人高岡学園　高新自動車学校
ザーレン・コーポレーション株式会社
ＤＯＢＯＴジャパン株式会社
エバー株式会社
株式会社コスモ開発
岡田金属株式会社
株式会社ソフト９９オートサービス
ＭＩＤＴＯＷＮ ＢＢＱ
青山エレベーター株式会社
医療法人社団ヒロデンタルクリニック
カトー機械株式会社
株式会社ジョイフル設備
株式会社アート買取協会
株式会社デジテックエイチピー
朝日金属株式会社
株式会社マイティミズタニ
城東電機株式会社
サンディスク株式会社
有限責任中部総合監査法人
ARMS株式会社
見田工作株式会社
愛知電線株式会社
笹原金型株式会社
有限会社大和工業
大成土木株式会社
株式会社エイチアンドエフ

2025 SUPER GT300 Round.3　MALAYSIA　～ Race Report ～

◆予　選

天候	曇り
コース状況	ドライ
気温	33℃（GT300クラスQ1開始時）
路面温度	40℃（GT300クラスQ1開始時）
予選開始	16時30分（GT300クラスQ1-A組開始）



Team LeMans は本年度より正式にエントラント名を VELOREX とし、昨年に引き続き、 FERRARI 296 GT3を投入してSUPER GT GT300クラスに参戦する。同クラス参戦５年目 となる今シーズンは、昨年に引き続きマシン名を「UNI-ROBO BLUEGRASS FERRARI」 とした。一方、ドライバーは第1ドライバーに片山義章、第2ドライバーにロベルト・メ リ・ムンタンを継続起用。チーム体制も継続し、第2戦富士大会で最後列から大逆転で初優勝を飾った。タイヤはこれまでどおりヨコハマタイヤを装着する。

今シーズンのSUPER GTでは予選方式が2023年までのノックアウト方式に戻されることとなった。GT300クラスの予選はグループA、グループBの2組にわけられ10分間の予選Q1が実施されるのは以前と変わらないが、予選Q2へは各組それぞれ1台ずつ増加し、 それぞれ上位9台が進出となり、合計18台での予選Q2に挑む。しかしセパン大会ではワイルドカードとして地元チームが2台参加し、変則的に各組上位6台が予選Q2に進出する形式が採用される。予選順位はQ2のタイム順で決定される。 またGT300 クラスはポイントシステムも変更され、ポイント獲得可能な順位を15位までと拡大。一方でトップ10までのポイントは1位25ポイントにはじまり、それぞれ５ポイント増となった。それにより、これまでにも増して10位 から15、16位の争いが激しいものとなる。なお、ポールポジションにも1点が与えられる。ワイルドカード参戦組にポイントは与えられない。

#6 UNI-ROBO BLUEGRASS FERRARI
予選結果：12位（予選Q1:7位／ロベルト選手：2分04秒412／予選Q2：不参加）

VELOREXとして初の海外戦を迎えた第3戦マレーシア大会は、木曜日に公式練習1回目、金曜日に公式練習2回目と予選、土曜日に決勝が行なわれる変則スケジュール。木曜日の公式練習1回目では20周をこなし2分04秒434を刻んだ6号車UNI ROBO BLUEGRASS FERRARIは全体で5番手につけた。しかしロベルト・メリ・ムンタン選手も片山義章選手もかなり滑る路面に対してグリップ不足を訴え、チームは金曜日の公式練習2回目と予選に向けてセットアップを変更。気温31℃、路面温度37℃で迎えた公式練習2回目では2分03秒741で4番手につけ、予選への期待が高まった。しかし16時30分、気温33℃、路面温度40℃の中でスタートした予選Q1グループA組ではUNI-ROBO BLUEGRASS FERRARIはロベルトが出走。しっかりとタイヤを温め3周目に2分04秒412で暫定3番手タイムをマークしたロベルトだったが、トラックインプルーブが予想以上に進み、最終的には７番手で予選Q2進出はならなかった。予選終了後1台のマシンが車両規定違反によりタイム抹消となり、決勝は12番手グリッドからのスタートとなった。

◆決　勝

天候　曇り

コース状況　ドライ

気温　33℃（スタート時）

路面温度　42℃（スタート時）

決勝レース開始　16時30分
（正式スタート時刻　16時38分31秒）

レース予定走行時間 300km　55周
（正式フィニッシュ時刻 18時26分33秒）

#6 UNI-ROBO BLUEGRASS FERRARI（片山&ロベルト選手）
決勝結果：13位（所要時間：3時間=50周消化／ベストラップ：2分05秒586=ロベルト 選手）

決勝日となった6月28日、マレーシアの天候は曇り。気温、路面温度の上昇を懸念し、レースは午後4時半スタートのトワイライトレースとして開催された。12年ぶりのマレーシア大会ということもあって、多くの地元ファンが詰めかけ、華やぐ大観衆に囲まれたグリッドウォークのあと、両国国歌斉唱が行なわて、レースは予定どおりスタート進行に入った。日本とは異なり交通機動隊を先導としたパレードラップは実施されず、そのまま2周のフォーメーションラップが実施され300kmレースは16時38分に正式なスタートが切られた。

12番手グリッドからスタートした片山は、いつもどおりの好ダッシュを見せてポジションキープで第１コーナーをクリアしたものの、ストレートスピードに予選時のような伸びが無く、1周目のコントロールラインを通過する際には13番手とひとつポジションを落としてしまった。しかしそこからコンスタントに周回を重ねて上位を伺ったが、路面温度と装着したタイヤのマッチングが悪く、暑さも伴い厳しい戦いを強いられる。

それでもなんとかこらえ切った片山は、当初の予定より1周早い17周を終えた段階で、14番手のポジションでピットに飛び込みロベルトに交代。VELOREXのピットクルーは、予想外に早くピットインしてきたマシンに対して、慌てる事無く冷静に対処し、全チーム最速のピット作業で6号車 UNI-ROBO BLUEGRASS FERRARIをコースへと戻した。18番手でレースに復帰したロベルトはすぐにハイペースで追い上げ、自己ベストラップを更新しながら12番手までポジションを戻すものの、滑る路面に対してスライドするタイヤの発熱が原因か、スティント後半にはフロントタイヤにデグラデーションが発生し、レース終盤には急にペースがドロップし始める。防戦一方という、ロベルトにしては珍しいレース展開となったが、ストレートの伸びが無いマシンでは、なんとかポジションをキープして１ポイントでも多く持ち帰ることに集中する以外にない。レース終盤の数ラップでは、後方から同じフェラーリがより速いペースで追い上げてきたが、なんとかそれを巧みなライン取りで最終ラップまで抑え続け、無事13位でチェッカー。チームにとって貴重な3ポイントを獲得してみせた。

2025 SUPER GT300 Round.3　MALAYSIA　～ Race Report ～

片山　義章　選手のコメント

自分にとって初めてのセパンサーキットでしたが、最後までマシンを路面に合わせ込めなかったというのが正直な感想です。とにかくグリップしないし、決勝はパワーも無く、50kgのサクセスウェイトが厳しいレースとなってしまいました。ストレートでスリップに入ってもついていけない状況の中では、精一杯のレースでした。それでもチームが一丸となって頑張ったことで、3ポイント獲得できたのは良かったです。自分たちと同様のタイヤを選んだチームも苦しんではいましたが、それでも自分たちにはもっとできた事があったと思いますし、この経験を今後に活かしたいと思います。次は前回優勝した富士スピードウェイでのレースですし、サクセスウェイトもゼロなので、今日の悔しさを晴らす気持ちで頑張りたいと思います。

ロベルト・メリ・ムンタン　選手のコメント

セパンはF1でも走ったことがあるサーキットなので自信はありましたが、レースウィークを通じて、自分たちの本当のパフォーマンスを発揮するチャンスはありませんでした。予選でQ2進出できなかった事も悔しかったですし、決勝ではフェラーリがパワー不足だったことも、路面とタイヤが合わなかったことも、原因はいろいろあると思いますが、前回が優勝だっただけに、本当に悔しいレースとなってしまいました。しっかりとデータを解析して、次につなげていくことが大切です。今回はピットクルーが素晴らしい作業をしてくれたおかげで、マシンのパフォーマンス以上の結果を残せたことに感謝しています。本当に暑い中、最後までレースを応援し続けてくれたファンの皆さんや、スタッフ全員に感謝しています。

小倉　啓悟　監督のコメント

50kgのサクセスウェイトの影響はあったにせよ、もう少しセットアップを決め込むことができたのではないかと反省が残る週末でした。国内のサーキットではできていたことが、海外で出来なかった事実に対して、きちんとデータ解析して、自分たちも進化しなければなりません。タイヤの使い方もセットアップでもう少しカバーできたと思いますし、確かに抜けないサーキットではありますが、マシンのパフォーマンスが厳しかったと思います。ただピット作業に関してはGT300全チーム中最速でしたし、ピットクルーの練習の成果が出たのは嬉しかったですね。チームとしてひとつでも上のポジションで戦っていくうえで、全員の自信につながったと思います。

古場　博之　エントラント代表のコメント

今回のレースは残念な結果だと言わざるを得ないです。セットアップの合わせ込みができなかった点もそうですが、個人的な意見としては日本流の考え方を海外に持ち込んだことで、挙動の不安定さを気にし過ぎたかも知れないと思います。もっと滑ることや不安定なことを容認してセットアップを考えても良かったかも知れません。持ち込みセットがオーバー気味だったのに、最後はトラックインプルーブやタイヤのデグラデーションでアンダーステアが強くなってしまい、ドライバーには苦労させてしまいました。フェラーリのエンジニアの気持ちも理解できますが、ストレートスピードの伸びが無かったのも厳しさを増す結果となりました。チームはこの暑さの中でも頑張ってくれて、ピット作業も１分10秒という最速タイムでドライバーを送り出してくれましたし、すごく良い仕事をしてくれました。次の富士に向けて、タイヤの選択やセットアップの方向性などを詳細に渡って見つめ直し、再び勝って、シリーズチャンピオン争いに名乗りを挙げるべく頑張りたいと思っています。

UNI-ROBO

BLUEGRASS

WestCove

ORC

ヒロ デンタル クリニック

朝日金属株式会社

CLIMAX
SOFT99 autoservice

KOHSHIN
DRIVING SCHOOL

TONE

zahren

SASAHARA

JOTO DIRECT

PANASHOP

ニチアス

DOBOT

osmo
evelopment

見田工作

愛知電線株式会社

Digi-Tec
INTECNO

SANDISK™

TAISEIDOBOKU Co., Ltd

中部総合監査法人

EVER
CORPORATION

AOYAMA
ELEVATOR

MIDTOWN BBQ
STEAK×SMOKEHOUSE

H&A
Human&ARMS

DAIWA

H&F

MAITY

PACIFIC
RACING TEAM

株式会社
アート買取協会

カトー機械株式会社